

個人山行

足尾：庚申山

- ◆日程 2019年6月29日(土)～30日(日)
 ◆メンバー L：西山、今井、大山、山田(留)

4年前の8月、袈裟丸山中腹の「寝釈迦像」を見に行った。「オ邪魔シマス」というとても厳かな気持ちになり恐れすら抱いた。誰にも会わない。一面笹だらけ。尾根上ではトンボが飛び交い別天地のよう、開放感がものすごい。この不思議な山域、お隣の山に今度は山の会の皆さんと行きたいと企画をした。

6月29日(土) 天候：曇りのち雨

台風3号は東の海へそれていった。やはり梅雨前線は居座っている。毎日何度となく天気をチェックした末、雨中歩行訓練兼お花観察会として山行決定。大山さんが車を出してくださり、上大岡駅から栃木へ。かじか荘からしばらくは林道歩き。

一の鳥居から山に入っていく。ずっと沢の音がしている。今井さんが熊鈴を出してつける。ときおり「びゃっ」という鹿の鳴き声がするが姿は見えない。暗い木立の間からヘルメットを下げた男女が降りてくる。いなくなってしまった仲間の捜索に来たものの鋸山で時間切れ、空振りだったようだ。「びいちゆるびいちゆる」、かわいらしい声の鳥がいる。大きな鏡岩(写真)、夫婦蛙岩を過ぎ、〇丁目と掘られた丁目石を見ながらゆるやかに登っていく。鮮やかなピンクのクリソウ(写真)の出迎えに、留美子さんが「いらっしゃいって言ってるみたい」とこたえ気もちがなごむ。



庚申山荘に到着、先客はなく広い広い吹き抜けの2階建てはがらんとしている。食事の支度をしつつ乾杯していると男女の2人組が到着。利用者はわれわれとの2パーティだけであった。今井さんによるオクラとツナのサラダに夏を感じる。パエリアはエビにランチョンミート、野菜たっぷりでご飯食べ抜群！

2人組は東京の山岳会に所属している、60代のベテラン風だ。我々が2階の布団へ引き上げた後もスマホで音楽を流したりして、騒々しい感じであった。あまり遅くまでであれば一言申し上げようと思っていたが(ほかのメンバーも同感だったよう)、睡魔に負ける方が早かった。マナーは他者視線で気づくところもある。時にはわが身を振り返ろうとすこし思った。敷布団の上だとやはり体がよく休まる。時折目が覚めたがかなりの雨音が続いていた。(記：西山)

CT：かじか荘 13:10 - 一の鳥居 14:30 - 鏡岩 15:00 - 庚申山荘 16:00

6月30日(土) 天候：雨のち晴れ

目が覚める、外は明るいがやはり降っている。下の食堂に降りお茶を淹れる。留美子さんのフレンチトースト、じっくりこんがり焼いて中はふかふか。山小屋風カフェでまったりしてるみたい・・・。

庚申山頂へ向かう。昨日とはかわり、道は傾斜を増しごつごつ、滝をくぐり(写真)沢を渡渉する場面もある。頭上に迫力の岩壁が現れる。コウシンコザクラが揺れている。こんな幽玄な場所がにぎやかな日光の奥にひっそりとあるとは。山頂近くなると平らで静かな森になり、岩山の上にこの景色が広がっていることも不思議だ。

庚申山頂は展望なし、写真を撮り下山。リハビリ中のリーダーは下りに依然自信がない。大山さんが先頭を歩き、続く留美子さんが



「そこ、滑りますよ。」「岩、動きますよ。」と声をかけ、後ろから今井さんが「右に重心がくると姿勢が崩れますね」と指摘してくれる。苦手な下りでしかも雨なのに、危ない思いをせず降りることができた。みなさんのお気遣いと優しさでまた次の下りが楽しみになった。お山めぐりへの分岐で、先頭2名が偵察に行ってくれる。かなりヤバい道で狭いトラバースと下りの繰り返しであったとのこと、親知ラズ子知ラズのあたりだろう。名前からしておどろおどろしい。

山荘まで戻ると空が明るくなってくる。濡れた装備をテラスにひろげ一服。さあ、あとは下りだけ。青空が見える、木漏れ日がちらちらする、雨あがりの森は緑が輝いている。ひぐらし、蛙の声を聴き夏休みのような気分になりながら下っていく。やせた鹿二頭が斜面の上の方からこちらを見ていたがすぐに白いお尻を見せて駆け上がっていった。林道に出る直前に庚申七滝に寄り道。雨後のものすごい水量は圧巻だ。

核心部であるお山めぐりもコウシンソウも断念したけれど、二日間とても面白く充実していた。メンバーのお三方はそれぞれに自分の好きな山があり思いも深く、話しが尽きない。自分も、自分の好きな山域・スタイルを探りつつ幅広い知識を身に付けていきたいと思った。今回お声がけいただいた・お誘いしたものの都合が合わなかった方もいた。みんな誘ってきつとまた来ようと思う山だった。

(記：西山)



●情報【庚申山】ロングでハードな山行はちょっと、でも秘境感やワクワクを味わいたい、という方におすすめ。テツの方にはわたらせ渓谷鐵道のオプションも可能。100名山ハンターの方には皇海山との組み合わせでより歩き応えのある山行に。

【庚申山荘】布団は掛、敷とも大量にあるものの、管理人の常駐はなく日に当てているか不明、自分用のインナーシートやシュラフカバーがあると安心快適。土間の炊事場に水が蛇口でひかれ、落ち葉のかけらが浮いてたりするがきれい。2階に広いベランダあり晴れていけば最高！ここで乾杯したい。

【かじか荘】ぬるぬるしたアルカリ単純泉、湯上がりさっぱり。入山時に駐車場を使える。横浜から車で(休憩込みで)4時間程度。

●メンバーからの一言【今井さん】庚申山、今回の企画がなければ登る機会がなかったかもしれないと思います。山域全体が神秘的な空気に包まれていました。雨中行軍となりましたが、下山時の雨上がりの緑がとても美しかったです。

【大山さん】奇岩と食虫植物を見たく参加した庚申山のお山巡り。残念ながら雨でどちらも見れませんでした。登り応えのある岩稜帯と美味しいご飯で楽しい山行でした。次回はお山巡りリベンジと皇海山まで足を伸ばしたいなあ。

【山田るさん】庚申山という山は初めて聞いた山で、珍しいコウシンソウが見られるという事で楽しみにしていました。とあるサイトによると、栃木県の山のグレードでは、男体山:B、庚申山:C、皇海山:Dだそうです。男体山は登った事があり、なかなかキツかったので、庚申山の方が難しい事に半信半疑でしたが、意外と手強い山でした。『お山めぐり』なんて可愛らしいハイキングコースになってますが、実際には『この先は上級者コースです』との看板が立ち、晴れの日に登ったら、とても楽しめそうな山です。朝食の食当にあたり、今回はフライパンが使えるという事で、フレンチトーストを選択。慎重に運んだ卵4個、豆乳2パックに保冷剤代わりの凍らせた飲み物にパン等、嵩張る重たい物を持ち、雨の中まるで歩荷トレーニングのようでしたが、美味しい食事に沢山の丸輪草や庚申小桜に心が踊り、瑞々しい木々に癒やされた楽しい山行でした。庚申草は、また来年チャレンジしてみましよう。

CT:庚申山荘8:10 - 大胎内分岐9:00 - 庚申山頂9:35 - 大胎内分岐10:30/10:50 -
庚申山荘11:40/12:40 - 鏡岩13:20 - 一の鳥居14:00 - かじか荘15:00